

D・Dを学ぶ

【概要】

臨床現場における様々な“暴力”を言語的・非言語的手法にて予防し、また、振り返りを行い今後の看護に繋げてゆくために2017年9月に発足し活動を開始しました。

【目的】

①患者さんからの暴力が生じないよう CVPPP の構成要素であるディエスカレーション (de-escalation) を含めた予防介入を実践できるスタッフの指導・育成を行う。

*ディエスカレーション (de-escalation) とは、物理的抑制や化学的抑制ではない、言語的・非言語的手段で興奮をおさめ、落ち着かせようとする治療的手法のこと。

②患者さんから暴力が生じた場合、CVPPP の構成要素であるディブリーフィング (de-briefing) を実践し、チーム全体で振り返りができるスタッフの指導・育成を行う。

*ディブリーフィング (de-briefing) とは、暴力を行った患者さんやそれに関わったスタッフに対して、患者さんには自らが攻撃性をマネジメントしていけるような関わりを、そしてスタッフには心理的ストレスを和らげ、さらに対処技術が向上していけるような取り組みを行うこと。

(目 標)

- ①CVPPP の構成要素であるディエスカレーション (de-escalation) ・ディブリーフィング (de-briefing) について必要性・重要性について理解できる。
- ②臨床現場において、ディエスカレーション (de-escalation) ・ディブリーフィング (de-briefing) に関する教育・指導を行うことができる。
- ③臨床現場において生じた事象に対し、必要に応じてディブリーフィング (de-briefing) を用いた支援を行うことができる。

平成 30 年 4 月より現場指導・教育開始

【構成メンバー】

- ・担当師長 1名
- ・看護師 4名 (急性期病棟・精神一般病棟勤務)

【実践内容】

- ・暴力に関する知識の共有
- ・現場に対しての指導・教育手法に関する検討
- ・CVPPP における基礎知識の理解
- ・外部施設への見学、相談、意見交換
- ・現状の共有と課題の確認